

UNDP(国連開発計画)で 働くということ ～日本とアフリカの架け橋を目指して～

「グローバルに活躍したい」
「発展途上国の人々に貢献できる人材になりたい」

そんなあなたへ・・・

大学院留学、経団連やOECD、国際公務員と、着実なステップを踏んでグローバルなキャリアを積み上げ、現在は国連ニューヨーク本部(UNDP アフリカ局)で勤務されている小松原茂樹さん。UNDPの窓口として、主にアフリカ開発会議(TICAD)の運営やアフリカ開発における日本との連携強化に携わっておられます。

小松原さんの豊富な業務経験について、また世界を舞台に働くことのやりがいや困難、問われる資質などについて、お話を伺いませんか？

2014年10月22日(水)
14:45～16:15

会 場：ファカルティラウンジ(7号館1階)

対 象：早大生・教職員・一般

言 語：日本語

参加費：無料

参加事前登録：不要(先着順50席)

ゲストスピーカー

国連開発計画(UNDP)アフリカ局
TICADプログラムアドバイザー

小松原 茂樹 氏

東京外国語大学卒業後、ロンドンスクールオブエコノミクス大学院で経済学修士号(国際関係論)を取得。
(社)日本経済団体連合会事務局、OECD(経済協力開発機構)民間産業諮問委員会(BIAC)事務局出向を経て2002年より国連開発計画に勤務。本部アフリカ局カントリーアドバイザー、ガーナ常駐副代表等を歴任。現在はニューヨーク勤務。

